ISSN1881-2848

静岡文化芸術大学 図書館・情報センターだより

温故知新

Shizuoka University of Art and Culture Library News

2023.7 Vol.42

令和5年7月発行
発行所 静岡文化芸術大学 図書館・情報センター
〒430-8533 浜松市中区中央二丁目1番1号
TEL(053)457-6124 FAX(053)457-6125
https://www.suac.ac.jp/library/

Contents

■表 紙
三河記（三河物語）――― ❶

■図書館散歩
見えざるものとの葛藤と煩悶 ― ❷
芸術文化学科 准教授
田中 裕二

本に出会う縁 本から学べる縁 ― ❸
デザイン学科 教授
岩崎 敏之

■知っていますか？こんなサービス
学生購入希望（リクエスト）― ❹

■図書館ニュース 特別企画
「有馬朗人先生 回顧展
－浜松のひと、世界のひと－」
を開催しました ――― ❽

『三河記』 第壹 題簽

『三河記』 第壹 内題

三河記（三河物語） 大久保彦左衛門[著]

写本［書写年不明］ 和装本 帙入（1帙, 5巻） 静岡文化芸術大学 和田文庫蔵
貴重書庫 ［210.1/Mi 22］

2023年の大河ドラマ「どうする家康」では、乱世を終わらせた徳川家康公の物語が描かれています。家康公は、元亀元年（1570年）に浜松城を築城し、29歳から45歳までの17年間を浜松城で過ごしました。本学が所在する家康公ゆかりの地・浜松市では、「どうする家康 浜松 大河ドラマ館」の開館をはじめ、家康公を紹介するさまざまな取り組みが実施されています。そこで、今回は当館が所蔵する徳川家に関わる貴重な資料をご紹介します。

『三河物語』は、徳川家代々の事績、天下統一に至る歴史と、著者である大久保氏一族の功績を述べた自叙伝です。本書は、近世初期の武士の生活と思想、とくに三河武士団の姿を伝えています。また、著者独特の表記・文体で記され、当時の表記法を知ることができます。自筆本は愛知県に現存し、1974年に重要文化財に指定されています。

本書は全3巻で、寛永3年（1626年）に完成しました。草稿本の段階から筆写を許したため、内容は同一ながら『大久保彦左衛門筆記』『大久保忠教自記』『三河実紀』『参州記』『参河物語』など多様な別称の異本があります。当館所蔵は写本で、内題に『三河物語』と記されているものの、書の題簽（外題）には『三河記』とあり、江戸時代中期のものと推定されます。

著者の大久保彦左衛門は、永禄3年（1560年）に三河で生まれ、戦国時代から江戸時代前期に活躍した武将で、江戸幕府の旗本です。徳川家康・秀忠・家光の3代に仕え、三河に2千石を領しました。彼は知略と反骨、奇行で知られ、多くの逸話があります。講談では「天下の御意見番」として親しまれました。寛永16年（1639年）2月1日に死去、80歳でした。大久保氏一族の菩提寺である長福寺（愛知県岡崎市）に葬られています。

参考文献：
・国史大辞典編集委員会[編]『國史大辭典』［210.03/Ko 53］
・齋木一馬(ほか)[校注]『三河物語；葉隠』［121.08/N 77/26］
・竹内誠、深井雅海[編]『日本近世人名辞典』［281.03/Ta 67］
・文化遺産データベース「三河物語」 https://bunka.nii.ac.jp/db/heritages/detail/133924［2023年7月3日閲覧］
・浜松市Webサイト「家康公ゆかりの地 浜松」 https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/ieyasu/［2023年7月3日閲覧］

芸術文化学科 准教授
田中 裕二
Tanaka Yuji

見えざるものとの葛藤と煩悶

巨人は好きになれなかった。巨人と言っても進撃の巨人ではなく、プロ野球の巨人のことである。しかも子供の頃は居間に鎮座するテレビが主役の時代。そこで流れるのは巨人戦だけ、父親は東京出身で巨人ファンだったにもかかわらず、何か違和感があった。

勝つことが当たり前で、それを義務付けられたエリート集団というイメージがあり、憧れよりむしろ、見えざる大きな力に対する、何者でもない自分のささやかな反抗だったのかもしれない。母親からは良く天邪鬼と言われた。

私は本の虫ではなかった。鶴見俊輔のように幼少期から万巻の書を読破し、その内容がすべて頭に入っている訳でもない。その証拠に、鶴見は本の内容を全て覚えているということをどこかで読んだのだが、どの本に載っていたのか思い出せない。しかし、いまは「読む」と「書く」ことを生業としているので、浅学菲才の身ながらお役目なので数冊紹介したい。

先ずはウクライナに軍事進攻したロシアによって再び注目を浴びる一書。戦争に出征するのは男性、銃後の守りは女性といった固定観念を覆す、スヴェトラーナ・アレクシエーヴィチ『戦争は女の顔をしていない』。第二次世界大戦で百万人を超える女性が従軍していたことも驚きだが、戦後は沈黙を続けていた女性たちの証言はすべてが衝撃的。

同書の日本語訳で解説を担当したのは『妻たちの二・二六事件』を上梓した澤地久枝である。澤地もまた、二・二六事件で刑死した男たちの妻の証言や史料を採録して執筆。正史と目される教科書では青年将校しか描かれない。しかし、良く考えれば当然のことだが、彼らにも妻や家族がいた訳で、その苦悩と呪縛がいかほどのものであったのか、思い知らされる。遺族にとって事件は終わりではなかったのである。

近年、環境活動家が名画を標的にした事件を起こしているが、1974年東京国立博物館で開催された「モナ・リザ展」で、《モナ・リザ》にスプレーを噴射した女性がいた。その女性について、本人の取材や関係資料から背景を丁寧に描いた荒井裕樹『凛として灯る』は必読の書。なぜ名画にスプレーをかけたのか、生い立ちから時代背景まで一人の女性の人生を丹念に追った。障害者の排除やウーマン・リブの活動といった文脈で、当事者である米津知子の内面に迫る。

排除というキーワードで思い浮かぶのは、知らず知らずのうちに、他者を排除し不寛容な公共空間になることに警鐘を鳴らす、五十嵐太郎『誰のための排除アート？不寛容と自己責任論』だ。他者を排除していった先には、誰にもやさしくない都市が待っている。それに慣らされてしまうことのなんと恐ろしいことか。巧妙に隠されていることに気付くと、街で見かけるオブジェが気になりだす。

隠された複雑な内実を公にして突きつけたのは、M・ハーウィット『拒絶された原爆展』。博物館の展示を企画する学芸員だった私にとって、戦慄の内容だった。通常は展覧会という結果しか見えないが、1995年米国のワシントンの国立スミソニアン航空宇宙博物館で企画された、B29爆撃機「エノラ・ゲイ」を中心とした「原爆展」が、いかに中止に追い込まれたのか、その紆余曲折を詳細に再現する。関係者の証言や膨大な資料を集めて詳説。在郷軍人会や議会の圧力、様々な思惑が錯綜する。

当たり前と思われていたことが実は近代になり、創られたものであったという内容も魅力的だが、この本はタイトル（翻訳）も秀逸。エリック・ホブズボウム，テレンス・レンジャー編『創られた伝統』は、国民国家の形成のため儀礼や儀式が近代になり意図的に創られ、「伝統」になったことを英国の事例から検証した。伝統だからといって盲信せず、常に批判的に見る姿勢は大切にしたい。

日本でも明治初年から、国民国家の形成の上で、華麗で荘厳なページェントが国家イベントとして考案され、人々の前に天皇が現れた。タカシ・フジタニ『天皇のページェント』は、それまで御簾の中で見えなかった天皇が、輿に乗って巡幸し、可視化された存在となったことを描く。それは明治新政府によって演出されたページェント、つまり壮麗な儀礼を伴う歴史劇であった。

日系米国人研究者のタカシ・フジタニのように外から日本を眺めると、日本にいると認識し難いことに気付くのだろうか。渡辺京二『逝きし世の面影』は、幕末から明治にかけて、日本に滞在した外国人の日記や証言を渉猟し、彼らの「まなざし」から江戸時代の独自性を炙り出した。いかに特異な文明が築かれていて、その文明が残念なことに西欧化によって滅びてしまったのか。本当にこんな理想郷があったのだろうか。信じられない思いで何度も読み返した。

外からみた日本文化論で言えば、古典中の古典だが、ルース・ベネディクト『菊と刀』も外せない。第二次世界大戦下に敵国日本を知る手がかりを得るため研究を委嘱され執筆。日本人の行動原理には、汚名をすすぐといったように「恥の文化」が根底にあるといった箇所は腑に落ちた。何より驚いたのは、戦時中ということもあり、著者が日本に一度も来たことがないという事実である。文献と日系人のインタビューで、ここまで分析できる研究者の慧眼に舌を巻いた。

最後に、悩み多き大学生の頃、河合隼雄『こころの処方箋』を母から送られた。短編集で平易な文体。不条理なことが多い世の中、がんばり過ぎないことなど、数々の言葉にずいぶんと救われた。今にして思えば天邪鬼だった私のことを心配してのことだったのかもしれない。

いまでも世の中から知らず知らずの内に見えなくなっていることや、隠されていること、いつの間にか正統と思い込まされていることが多い。学生の皆さんには、思い込みを捨て、巨人に立ち向かってほしい。それが権威や通説と呼ばれるものなら、なおさら。

文章中で紹介した図書

スヴェトラーナ･アレクシエーヴィチ[著]; 三浦みどり[訳]
『戦争は女の顔をしていない』
986/A 41

澤地久枝[著]
『妻たちの二･二六事件』
210.7/Sa 93

荒井裕樹[著]
『凛として灯る』
916/A 62

五十嵐太郎[著]
『誰のための排除アート？：不寛容と自己責任論』
081/Ib 1/1064

マーティン･ハーウィット[著]; 渡会和子, 原純夫[訳]
『拒絶された原爆展：歴史のなかの「エノラ･ゲイ」』
210.75/H 34

E･ホブズボウム, T･レンジャー[編]; 前川啓治, 梶原景昭(ほか)[訳]
『創られた伝統』
389/H 81

T･フジタニ[著]; 米山リサ[訳]
『天皇のページェント：近代日本の歴史民族誌から』
313.6/F 67

渡辺京二[著]
『逝きし世の面影』
210.58/W 46

ルース･ベネディクト[著]; 越智敏之, 越智道雄[訳]
『菊と刀：日本文化の型』
382.1/B 35

河合隼雄[著]
『こころの処方箋』
140.4/Ka 93

デザイン学科 教授
岩崎 敏之
Iwasaki Toshiyuki

本に出会う縁　本から学べる縁

とにかく本を読むのは好きでした。

小学生の頃は、星新一のショートショートに出会って、星新一の本をすべて読み尽くしました。中でも名作は『ボッコちゃん』に収められている『処刑』だと思っています。ミステリー小説も読み始め、中学生の頃はアガサ・クリスティの翻訳本のエルキュールポアロものをすべて読み尽くしました。犯人を知らないまま『オリエント急行殺人事件』の謎解き箇所を読んだ時の感動は、今も忘れられません。推理小説では都築道夫の作品も数多く読みました。なめくじ長屋捕物帳シリーズの砂絵のセンセーみたいになりたいと薄っすら思っていたら、いつの間にかそんな感じになってしまっている気がします。高校生になって美術部で絵を描くようになった時に岡本太郎の『今日の芸術』にある下手でも良いのだというメッセージに勇気づけられてから、岡本太郎の著作も読破しました。開き直ってしまったおかげで絵は下手なままで今日に至ります。大学に入ってからは、図書館で手当たり次第で借りること、京福電車の一乗寺駅のすぐ横にあった小さな古本屋で本を買い漁ることが日課でした。読んだ本の記録もなく記憶もあいまいですが、宮沢賢治の詩『告別』を暗誦していたことや、いしかわじゅんの『約束の地』や『うえぽん』を何度も読み返していたことがふと思い起こされます。

本学図書館の新着本コーナーは優れものです。

教員は主に自らの専門領域に関わる図書を選書して図書館の蔵書の充実に貢献する役割を果たしますが、本学の図書館には、専門書とは別に手軽に読める新書や文庫が新着本のコーナーに並べられています。この選書のセンスがとても良いのです。時折みては借りて読み、これは良いと思ったものは改めて購入することにしています。ちくま学芸文庫とか講談社学術文庫の新刊などで、これぞと思える本には、ここで出会えます。最近出会えたのは『まちがえる脳』　脳科学の俗説を一刀両断している解説は痛快です。

おすすめできる本に数限りはありません。

これぞと思った本をいくつか紹介することにします。図書館の新着本コーナーで出会ってから購入した本も数多く含みます。

まずは、『歎異抄』（たんにしょう）。現代語訳しか読んでいませんが、700年以上も前にすでに、運命なるものの捉え方の答えが示されていたことに感心させられます。また、『正法眼蔵』（しょうぼうげんぞう）は800年ほど前に記されものですが、たとえばその中の『画餅』（がびょう）という巻には「この世界もこの存在もことごとく画図」であると記されていて、デザインの本質を見据えていることに驚かされます。そんな昔から現在に至るまで、賢い人は賢いなあ、さすがだなと思える人が書かれた本は数限りなくあって読み尽くすことはできません。

『語りえぬものを語る』　PR誌に掲載されたものがまとめられている本ですが、ものの捉え方の本質に触れることができます。矛盾しているようなタイトルからして魅力的な本です。

『ありえないことが現実になるとき』　「予想が現実化しないように行われる予想」という一文だけからも、この本の面白さが滲み出ている気がします。

『解放されたゴーレム』　さまざまな事故やトラブルの原因分析が紹介されています。専門性とは何かを考える重要な鍵として「非専門家の専門性」という言葉が示されています。

『スモール イズ ビューティフル再論』　今現在何をなすべきかという問いへの答えが、50年ほど前に的確に示されていたことに感心させられます。

『日常的実践のポイエティーク』　日常の実践の重要性が説かれている本です。少々分厚く読みにくいかもしれませんが「空間と場所の区別」など示唆に富む論考が数多く示されています。

『哲学的思考』　フッサールの現象学と向き合い「客観性」について論述されている本ですが、一気に読めてしまいます。サブタイトルの中のキーワードでもあるものごとの「核心」に迫ることができます。

『責任という虚構』　「虚構のおかげで現実が存在する」という一文があって『正法眼蔵』の『画餅』の解説本ではないかと思えてしまうような本です。

『よくわかるメタファー』　比喩とは何かという問いに徹底的に向き合っている本です。さらに知識を深めたくなれば巻末に紹介されている本へと読み進めていけば良いと思います。

『「きめ方」の論理』　社会における倫理の問題を数学的なモデルで捉える方法が示されています。40年以上前の本が文庫化されたものですが、実に新鮮な知見が得られます。

ドキュメンタリーなるものと向き合うのであれば、『それでもドキュメンタリーは嘘をつく』『殺人犯はそこにいる』の2冊は必読の書だと思います。

最後に『笑う子規』。「柿くえば鐘が鳴るなり法隆寺」誰もが知っているこの俳句、無関係なものを関係づけてしまう思考の癖を見事に示している名作だと思っています。

終わりに・・・

このページの原稿依頼を受けて一気に書いてしまいましたが、読み返してみると、これまでの自分は、縁とは何かを考え続けて縁ある本に出会う旅をし続けている気がします。

文章中で紹介した図書

岡本太郎[著] 『今日の芸術：時代を創造するものは誰か』	704/O 42
櫻井芳雄[著] 『まちがえる脳』	081/I 954/1972
阿満利麿[訳・注・解説] 『歎異抄』	081/C 441/A9-5
野矢茂樹 [著] 『語りえぬものを語る』	081/Ko 191/2637
ジャン=ピエール・デュピュイ[著]; 桑田光平, 本田貴久[訳] 『ありえないことが現実になるとき：賢明な破局論にむけて』	081/C 441/TE14-1
ハリー・コリンズ, トレヴァー・ピンチ[著]; 村上陽一郎, 平川秀幸[訳] 『解放されたゴーレム：科学技術の不確実性について』	081/C 441/KO50-1
E・F・シューマッハー [著]; 酒井懋[訳] 『スモールイズ ビューティフル再論』	081/Ko 191/1425
ミシェル・ド・セルトー[著]; 山田登世子[訳] 『日常的実践のポイエティーク』	081/C 441/SE8-1
西研[著] 『哲学的思考』	081/C 441/NI3-2
小坂井敏晶[著] 『責任という虚構』	081/C 441/KO34-2
瀬戸賢一[著] 『よくわかるメタファー：表現技法のしくみ』	081/C 441/SE6-1
佐伯胖[著] 『「きめ方」の論理：社会的決定理論への招待』	081/C 441/SA42-1
森達也[著] 『それでもドキュメンタリーは嘘をつく』	778-7/Mo 45
清水潔[著] 『殺人犯はそこにいる：隠蔽された北関東連続幼女誘拐殺人事件』	368.61/Sh 49
正岡子規[著]; 天野祐吉[編]; 南伸坊[絵] 『笑う子規』	911.368/Ma 63

知っていますか？こんなサービス

学生購入希望（リクエスト）

図書館・情報センターを利用していて、「読みたい本があるけど所蔵されていない」「こんな本を置いてほしい」「卒業制作に必要な本があるけど、個人では高価で買えない」などといったことはありませんか?

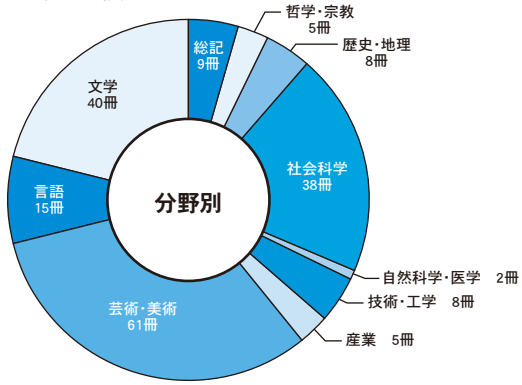
そのような時は、学生購入希望(リクエスト)を活用してください。学生購入希望を申込するときは、カウンター前の掲示板にある「購入希望図書申込書(3枚綴)」に必要事項(図書の情報など)を記入して、カウンターに提出してください。

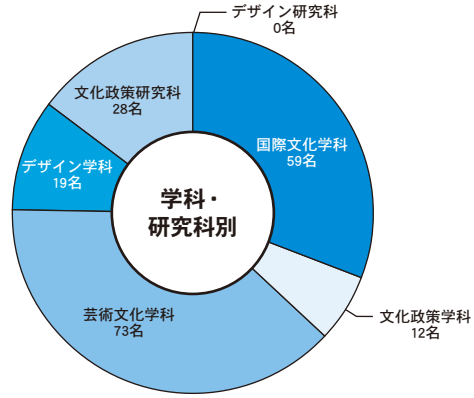
★学生購入希望（リクエスト）について

・学生購入希望は、本学の学生を対象とするサービスです。
・2022年度は6～7ページ掲載の191冊を受け入れました。
・絶版や品切となっている図書、洋書、CDやDVDなどの視聴覚資料も申込可能ですが、入手できないこともあります。
・雑誌・漫画類および1 点が5 万円以上の高額図書を除きます。
・学習や調査研究に無関係の個人的な利用目的は対象外です。
・一度に多数の購入希望を申し込むのはご遠慮ください。

その他、学生購入希望で不明なことがありましたら、カウンターでご相談ください。

■2022年度の受入実績





学生購入希望（リクエスト）で購入した図書のご紹介

"The $12 million stuffed shark : the curious economics of contemporary art"

Don Thompson

Palgrave Macmillan, 2010

[701.3/Th 6]

"The $12 Million Stuffed Shark : The Curious Economics of Contemporary Art" は、アート市場における現代美術作品の価値形成についての本です。ニューヨークのオークションハウスで落札されたダミアン・ハーストの "The Physical Impossibility of Death in the Mind of Someone Living" というタイトルのサメの標本が、なぜ1,200万ドル、日本円に換算すれば約16億円という金額で落札されたのかということを一つの事例として、その事象を経済学や心理学的背景から考察を加えていくものです。

本書では、芸術作品の価値がいかに形成されるか、そして現代美術市場がどのように機能するかについて説明しています。著者は、美術市場における価値の決定要因について、芸術作品の美学的品質よりも、むしろその作品に関するストーリーやマーケティングによって左右されることを指摘しています。

また、アーティストとディーラー、コレクターとオークションハウスの関係性にも焦点を当てています。これらのプレイヤーたちは、一見競合するように見えますが、実際には相互に依存し合っていることが本書の中では明らかにされています。例えば、ディーラーやオークションハウスは、コレクターや投資家に作品を販売することで利益を得ることができますが、同時にアーティストや作品のプロモーション、ブランディングにも貢献することが求められるということなどが述べられています。

加えて、現代美術市場における現象としての「ブランド化」についても複数の章を横断して論じられています。芸術作品自体だけでなく、アーティスト自身のブランドイメージや、オークションハウスやギャラリーのブランド力も価値の決定要因になることが、さまざまなオークションやアーティストを具体的に参照し、検証されています。

本書は、美術市場やアート・ワールド、アート・インダストリーに興味がある方におすすめです。街にあるギャラリーやニュースで話題になるオークションの落札価格がいかにして生まれるのか。その仕組みを知りたい方は、ぜひ本書を手にとってみてください。

【文化政策学部 芸術文化学科 2年　一ノ瀬 龍星】

『北欧の公共図書館と生涯教育』

彌吉光長 [著]
日本図書館協会 , 1992.3
[016.2389/Y 67]

私は図書館に興味があり、現在は林左和子ゼミの下で図書館について深く学んでいます。その中で、図書館が持つ信頼性に興味をもち、また研究していく中で北欧の公共図書館、特にデンマークの公共図書館が信頼性で非常に優れていることが分かりました。そこで、実際の北欧の公共図書館のサービスやその信頼性の要因について知るために、本書の購入依頼をしました。

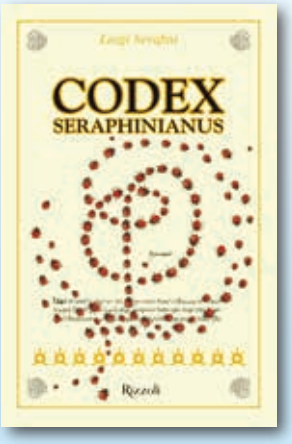
デンマークの公共図書館について学んでいく中で、本書の著者である彌吉光長さんがデンマークの公共図書館について専門的に研究している方ということがわかり、文献を調べていったところ、本書に辿り着きました。内容として本書は7章に分かれていて、基本的にデンマークの公共図書館について深く取り上げられ、公共図書館について様々な角度から学ぶことができます。例えばデンマークの国民性、デンマークの公共図書館の成り立ち、実際の図書館サービス、専門的な司書育成についてなどが紹介されています。また、デンマークと他の北欧の国々を比較してどのような生涯教育がなされているかなども書かれており、公共図書館と生涯教育との関わりについて深く学ぶことができます。公共図書館について紹介されていると同時に、公共図書館に関わる事柄など図書館以外からの視点でも説明がなされており、この一冊を読むことで、北欧の公共図書館の充実した情報を得ることができます。

デンマークの公共図書館について書かれたものが本学にもいくつかありましたが、本書は他と比較して130ページとページ数が少なく、本書を最初に受け取ったときは、本当にこの本で深く学ぶことができるのか少し不安になったことを覚えています。しかし、その予想とは大きく異なり、本書は内容が充実したものであり、自分の学習、研究に大きく役に立ちました。リクエストすることで貴重な文献を容易に無料で読むことができるのは、本学学生の特権であり、自分の興味や研究のために利用してみるとよいかもしれません。

【文化政策学部 文化政策学科 4年　鈴木 明】

“Codex Seraphinianus : 40th Anniversary Edition”

Luigi Serafini
Rizzoli International Publications, 2021
[038.999/Se 81]



判読できない上、重く、大きいです。

ヴォイニッチ写本からヒントを得たと言われるこの本は、イタリアの芸術家、建築家、工業デザイナーのルイジ・セラフィーニが20代の頃に30ヶ月で書き上げたものです。

この本は、インターネットを通じて有名になりました。セム文字のような曲線的な大文字と小文字のアルファベットのような文字、おそらく数字を表す記号などが使われており、どの言語でも解読することができません。そのため、世界中の多くのファンがこの本の魅力的な不明瞭さに魅了されています。日本でも、知る人ぞ知る奇書として認知されており、私がこの本を知ったのも、日本人が作成したYouTubeの本紹介動画を通じてです。

実物を見たいと思い、大学の図書館で蔵書検索を試みたのですが、見つからなかったため購入希望を出しました。出してはみたものの、この本は値段が高く、私の希望する廉価版でも数万円かかるため、買ってもらえないだろうと思っていました。しかし、意外にも購入してもらうことができました。届いた実物は重く大きく、インターネット上で見られるコピーとは当然異なり、予想以上の存在感や異物感がありました。

内容は、作者が創作した異世界について、作者自身の個性的なイラストと共に普通の百科事典のように書かれています。大きく前半と後半に分かれており、前半では、動植物や物理などの自然科学について、後半では地球上の人間のような生物の生活の側面について、さまざまな角度から記述されています。著者の視野の広さと実行力には、本当に感嘆せざるを得ません。

私は春休みの長期貸出期間中に、この本を借りました。解読できないので、じっくりと読むことはできませんでしたが、本をそこに置いておくだけでも、時折ページをめくるだけでも心地よい気持ちになりました。

この本は、存在そのものが魅力的であり、言葉や文字だけでは表現しきれないものがあります。その奇妙な文字や絵、そして謎めいた世界観が、私たちの想像力をかき立てます。

【デザイン学部 デザイン学科 4年　五十川 歩希】

受入図書一覧

請求記号	資料名	請求記号	資料名
002/Sh 99	わたしの学術書：博士論文書籍化をめぐって	372.107/I 75	ルポ誰が国語力を殺すのか
007.3/B 25	操られる民主主義：デジタル・テクノロジーはいかにして社会を破壊するか	378/Ts 34	障害児の放課後白書：京都障害児放課後・休日実態調査報告
007.642/Ka 95	ビジュアルクリエイターのためのTouchDesignerバイブル	380.8/Mi 47/99	祭礼と風流：特装版
007.642/Ma 91	Visual thinking with touchdesigner 改訂第2版	382.1/F 57	「日本の伝統」という幻想
007.642/Sa 17	Live2Dの教科書：静止画イラストからつくる本格アニメーション 改訂版	386.1/So 45	祭りの現象学
010.8/Ko 98/4	図書館情報技術論：図書館を駆動する情報装置 第2版 (講座・図書館情報学:4)	386.81/H 92	過疎地の伝統芸能の再生を願って：現代民俗芸能論
016.2389/Y 67	北欧の公共図書館と生涯教育	386.81/I 59	民俗と仮面の深層へ：乾武俊選集
038.999/Se 81	Codex Seraphinianus 40th Anniversary Edition	388.136/N 71	お江戸の「都市伝説」
051.8/J 55	少女の友：創刊100周年記念号：明治・大正・昭和ベストセレクション	388/A 63	龍の起源
146.1/A 16/2	幸せになる勇気 (自己啓発の源流「アドラー」の教え:2)	389/G 75	アナーキスト人類学のための断章
161.3/L 99	ジーザス・イン・ディズニーランド：ポストモダンの宗教、消費主義、テクノロジー	389/G 75	価値論：人類学からの総合的視座の構築
170/Sh 45	教養としての神道：生きのびる神々	396.21/I 89	兵隊たちの陸軍史
184.9/Ka 48	五寸四方の文学世界：重要文化財「称名寺聖教」唱導資料目録	470/A 44	百葉帖
188.8/Ta 59	虚無僧：聖と俗の異形者たち	489.6/Ta 26	海獣学者、クジラを解剖する。：海の哺乳類の死体が教えてくれること
207/Mu 43	歴史学で卒業論文を書くために	519.8/Sh 59	変容するコモンズ：フィールドと理論のはざまから
210.1/N 38	災害と生きる日本人	523.164/Ka 97	宝塚温泉リゾート都市の建築史
210.17/I 85	マンガでわかる災害の日本史	548.3/I 73	アンドロイドは人間になれるか
210.6/N 99/6	日記をつづるということ：国民教育装置とその逸脱	586/Se 65	やさしい繊維の基礎知識
210.6/Ta 84	無数のひとりが紡ぐ歴史：日記文化から近現代日本を照射する	591/R 96	本当の自由を手に入れるお金の大学
210.6/Ta 84	日記文化から近代日本を問う：人々はいかに書き、書かされ、書き遺してきたか	596.63/A 16	パンの日本史：食文化の西洋化と日本人の知恵
210.6/W 62	ウェストンの明治見聞記：知られざる日本を旅して	596.63/Ko 38	パンと昭和
210.74/F 68	羅山に散るまで：日中戦争隊付軍医の日記	599/Ma 26	パパの家庭進出がニッポンを変えるのだ!
302.386/Ko 97	中学生から知りたいウクライナのこと	611.4/H 77	シンプルで地に足のついた生活を選んだヒッピーと呼ばれた若者たちが起こしたソーシャルイノベーション
302.53/P 42	ヒッピーのはじまり	673/Ta 47	リッツ・カールトンで学んだマンガでわかる超一流のおもてなし
304/G 34/7	ロシア現代思想 2 (ゲンロン:7. Genron)	689.5/Mi 73	ディズニーランド研究：世俗化された天国への巡礼
304/G 34/8	ゲームの時代 (ゲンロン:8. Genron)	689/E 44	エコツーリズムの世紀へ
304/G 34/9	ゲンロン 9	699.22/I 92	対話としてのテレビ文化：日・韓・中を架橋する
304/Sa 72	マッドフラッド：泥海に沈んだ先進文明タルタリア	701.3/A 94	生と死をつなぐケアとアート：分かたれた者たちの共生のために
309/To 55	みんなの「わがまま」入門	701.3/Ki 62	社会の芸術/芸術という社会：社会とアートの関係、その再創造に向けて
311.13/Ka 86	政治社会学 第5版	701.3/Ky 9	アートマネジメントと社会包摂：アートの現場を社会にひらく
311.13/Y 28	対立と分断の中のメディア政治：日本・韓国・インドネシア・ドイツ	701.3/N 48	障害者の舞台芸術鑑賞サービス入門：人と社会をデザインでつなぐ
316.81/So 11	半難民の位置から：戦後責任論争と在日朝鮮人	701.3/Th 6	The $12 million stuffed shark : the curious economics of contemporary art
329.94/Sa 71	ボーダー：移民と難民	701.4/A 94	病院のアート：医療現場の再生と未来
338.5/Ka 48	銀行とデザイン：デザインを企業文化に浸透させるために	701.5/So 32	ソッカの美術解剖学ノート
361.453/O 54	これからのメディア論	702.06/J 24	ジャポニスムを考える：日本文化表象をめぐる他者と自己
361.5/St 3	なぜ日本は「メディアミックスする国」なのか	702.16/U 76	日本のアール・ヌーヴォー
361.78/Ki 56	東京の生活史	702.35/A 96	George Auriol 1st ed
366.8/N 21	軍艦島に耳を澄ませば 増補改訂版	702.37/F 38	ルチオ・フォンタナとイタリア20世紀美術：伝統性と革新性をめぐって
367.1/G 39	あなたのセックスが楽しくないのは資本主義のせいかもしれない	702.37/F 38/1	Lucio Fontana : catalogo ragionato di sculture, dipinti, ambientazioni t. 1
367.1/H 85	フェミニズムはみんなのもの：情熱の政治学	702.37/F 38/2	Lucio Fontana : catalogo ragionato di sculture, dipinti, ambientazioni t. 2
367.1/Ka 81	生きるためのフェミニズム：パンとバラと反資本主義	704/Ka 17	記憶の網目をたぐる：アートとジェンダーをめぐる対話
367.1/Ma 24	フェミニズムとレジリエンスの政治：ジェンダー、メディア、そして福祉の終焉	704/Y 31	ポスト人新世の芸術
367.1/P 23	フェミニストってわけじゃないけど、どこか感じる違和感について	706.9/O 14	キュレーションの方法：オブリストは語る
367.1/Ta 54	布団の中から蜂起せよ：アナーカ・フェミニズムのための断章	706.926/C 18	エリック・カール展
367.6199/U 17	ヤンキーと地元：解体屋、風俗経営者、ヤミ業者になった沖縄の若者たち	712.37/F 38	Lucio Fontana : the artist's materials
368.61/Sa 25	母という呪縛 娘という牢獄	723/Y 69	絵画とタイトル：その近くて遠い関係
369.27/N 41	不揃いな身体でアフリカを生きる：障害と物乞いの都市エスノグラフィ	727/W 39	john warwicker the incomplete work and opinions of an amateur
369.3/Ka 86	避難生活に役立つ「カトー折り」	748/F 16	飛ぶ紙：ベルナール・フォコン写真集

請求記号	資料名	請求記号	資料名
748/Sc 1	Caught in the act : actors acting	815.7/Sa 75	日本語文末詞の歴史的研究
748/W 79	ジョエル	816.5/O 42	ゆるレポ : 卒論・レポートに役立つ「現代社会」と「メディア・コンテンツ」に関する40の研究
753.3/Y 52	芭蕉布物語 新版	829.37/I 89	ムラブリ : 文字も暦も持たない狩猟採集民から言語学者が教わったこと
753.8/Mi 47	草木染め大全 : 染料植物から染色技法まですべてがわかる	829.44/Y 44	大学のフィリピノ語
759.9/Sa 25	凧づくり : 日本の凧のすべて	830.7/C 14/16	IELTS 16 academic with answers : authentic practice tests
760.69/O 65/12	音楽芸術マネジメント 12 (2020)	830.79/U 18	実践IELTS (アイエルツ) 英単語3500
762.33/A 74	シェイクスピアの音楽	889.8/W 46	一冊目のポーランド語
763.2/B 13/1	Das wohltemperierte Klavier, Teil I	910.23/I 43/8	漢詩文と平安朝文学 (今井源衛著作集:8)
763.2/B 13/1-2	Das wohltemperierte Klavier : 48 Präludien und Fugen progressiv geordnet I-II	910.26/N 84	誰もいない文学館
763.2/B 13/2	Wohltemperiertes Klavier 2	910.264/Ta 67	クィアする現代日本文学 : ケア・動物・語り
763.2/B 13/2	Das wohltemperierte Klavier, Teil II	911.104/A 12	聖なる声 : 和歌にひそむ力
763.2/B 13/3-4	Das wohltemperierte Klavier : 48 Präludien und Fugen progressiv geordnet III-IV	912.4/Su 84/3	義経千本桜 (ストーリーで楽しむ文楽・歌舞伎物語:3)
763.2/Mo 98/1	Zongoraszonáták New ed [v.] 1	913.36/A 12	源氏物語の物語論 : 作り話と史実
763.2/Mo 98/1	Klaviersonaten Bd. 1	913.36/Ko 39	源氏物語批評
763.2/Mo 98/2	Zongoraszonáták New ed [v.] 2	913.363/I 32	源氏物語の歌と人物
763.2/Mo 98/2	Klaviersonaten Bd. 2	913.37/Ko 64	今昔物語集を読む
763.9/H 67	名作の技から学ぶゲームミュージック作曲テクニック	913.56/Ta 73/1	妖刀村雨丸 (南総里見八犬伝:第1の物語)
763.9/Sh 49	DTMerのためのコード入門	913.56/Ta 73/2	五犬士走る (南総里見八犬伝:第2の物語)
764.7/Sa 85	新蒸気波要点ガイド : ヴェイパーウェイヴ・アーカイブス2009-2019	913.56/Ta 73/3	妖婦三人 (南総里見八犬伝:第3の物語)
767.8/H 84	BTSオン・ザ・ロード	913.56/Ta 73/4	八百比丘尼 (南総里見八犬伝:第4の物語)
767.8/I 11	BTSとARMY : わたしたちは連帯する	913.6/N 14	ミシンと金魚
767.8/Ki 38	BTSを読む : なぜ世界を夢中にさせるのか	913.6/N 84	雨滴は続く
767.8/N 71/2	日本流行歌史 新版 中 : 1938-1959	913.6/N 84	蝙蝠か燕か
767.8/Sh 17	シティポップとは何か	913.6/Sa 66	嘘ばっか : 新釈・世界おとぎ話
767.8/Y 98	BIGHIT : K-POPの世界戦略を解き明かす5つのシグナル	913.6/Y 97	#真相をお話しします
768.17/O 26	天鼓 : 小口大八の日本太鼓論	916/Mi 67	太陽の子 : 日本がアフリカに置き去りにした秘密
770.4/A 13	メタシアター	916/Sh 73	定本菊兵団軍医のビルマ日記
770.4/Mo 45	演劇と音楽	918.68/Ka 99/3	古代文学の発生 再版 (風巻景次郎全集:第3巻)
774.3/G 94	歌舞伎のタテ	918/N 71/6	竹取物語/伊勢物語/堤中納言物語 (日本の古典をよむ:6)
774/Ka 11/3	立廻り (DVD, 歌舞伎の魅力)	923.7/B 63/1	魔道祖師 1
774/Ka 11/5	立廻りの美 : 義経千本桜に観る (DVD, 歌舞伎の魅力)	929.13/Mi 35	僕の狂ったフェミ彼女
778.21/Ki 46	木下恵介とその兄弟たち	929.2/Y 31	カムイ・ユーカラ : アイヌ・ラッ・クル伝
778.21/N 23	殺陣 : チャンバラ映画史	930.25/Ti 4	エリザベス朝の世界像
778.253/W 15	Jojo Rabbit (DVD)	930.278/O 71	オーウェルの薔薇
778.4/Ku 69	映画音楽の技法	932.5/Sh 12	The Oxford handbook of Shakespeare and music
778.77/A 49/2020	アニメCGの現場 2020	932.5/Sh 12	シェイクスピアの新喜劇 : シェイクスピアにおける喜劇的変容
778.77/A 49/2021	アニメCGの現場 2021	932.5/Sh 12	Shakespeare and music (The Arden Shakespeare. The Arden critical companions)
778.77/D 78	ウォルト・ディズニー : 創造と冒険の生涯 完全復刻版	932.5/Sh 12	Shakespeare, music and performance
778.77/Mi 88	千と千尋の神隠し (スタジオジブリ絵コンテ全集:13)	932.5/Sh 12	新訳夏の夜の夢
798.5/F 13/2022	ファミ通ゲーム白書 2022	932.5/Sh 12/2	真夏の夜の夢 (対訳・注解研究社シェイクスピア選集:2)
801.03/I 57	社会言語学の枠組み	933.7/A 95	侍女の物語
804/Ka 92	フリースタイル言語学	933.7/A 95	誓願
804/Ta 47	語学の天才まで1億光年	933.7/B 71	華氏451度 新訳版
807/Ko 97	日本語教師のための新しい言語習得概論 改訂版	933.7/C 33	長いお別れ
807/Ko 97	第二言語習得について日本語教師が知っておくべきこと	933.7/P 99/1	重力の虹 上 (Thomas Pynchon complete collection:1973)
807/Sh 49	中間言語語用論概論 : 第二言語学習者の語用論的能力の使用・習得・教育	933.7/P 99/2	重力の虹 下 (Thomas Pynchon complete collection:1973)
810.7/Ka 94	公共日本語教育学 : 社会をつくる日本語教育	943.7/C 29	僕は美しいひとを食べた
810.7/Mi 95	ジェンダーから見た日本語教科書 : 日本女性像の昨日・今日・明日		

(計 191 冊)

図書館ニュース　特別企画

「有馬朗人先生 回顧展　－浜松のひと、世界のひと－」 を開催しました

2020年12月6日に逝去された、公立大学法人静岡文化芸術大学　前理事長　有馬朗人先生のこれまでのご功績を偲び、「有馬朗人先生回顧展－浜松のひと、世界のひと－」を開催しました。

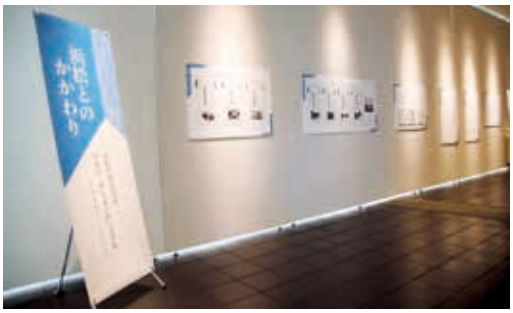
有馬先生は、ご専門の物理学にとどまらず、幼少の頃から俳句に親しむなど、多岐にわたって活躍されました。本展では、先生の遺品やゆかりの文物を展示し、浜松で過ごされた少年時代、教育への思い、俳句に込められた郷土愛など、「浜松」を巡る有馬先生の足跡を辿りました。

回顧展初日には、有馬先生に所縁の深い方々をお招きして「開催式」を挙行しました。また、開催期間中は、多くの方々に回顧展をご覧いただきました。本展終了後には、図書館・情報センターに於いて、回顧展で展示した資料の一部をご紹介しました。

本展の開催にあたり、貴重な資料をご提供いただいた関係機関の皆様をはじめ、さまざまなご助力を賜りました方々に、心より御礼を申し上げます。

開催式

会場に再現された理事長室



回顧展会場の展示

図書館・情報センターの展示

主な展示物

■浜松とのかかわり
- 静岡新聞 連載記事「わが青春」1991年10月～1992年2月
- 濱一中社會部[編]『濱一中新聞』第1号・第2号（1947年、1948年）
- 『健児我等 浜松一中 52回 卒業50周年記念』（1998年3月）
- 『静岡県立浜松北高等学校 特別講義録』第8集（1992年2月）
- 同級生・同窓生、産業界・浜松市関係者からのことば

■物理学者として
- 有馬先生ご著書
  “The interacting boson model” Cambridge University Press, 1987
  『量子力学』（朝倉現代物理学講座,4）朝倉書店, 1994
  『原子と原子核：量子力学の世界』（基礎の物理,9）朝倉書店, 1982
  『物理学は何をめざしているのか』筑摩書房, 1995
- 松井孝典氏（本学理事）からのことば

■教育者として
- 有馬先生ご著書
  『大学貧乏物語』　東京大学出版会, 1996
  『21世紀のパワー：教育か破局か』　現代工学社, 1999
  『わが道、わが信条：有馬朗人の贈ることば』　春秋社, 2016
- 熊倉功夫氏（本学前学長）からのことば

■俳人として
- 有馬朗人先生 俳句作品
- 有馬先生ご著書
  『有馬朗人』（花神コレクション「俳句」）　花神社, 2002
  『黙示：句集』KADOKAWA, 2017
  『現代俳句の一飛跡』深夜叢書社, 2003
- 天為俳句会 会誌『天為』有馬朗人一周忌特別号
- 天為俳句会同人からのことば

会 期：2023年3月1日 から 3月9日 まで（3月5日は休展）
会 場：静岡文化芸術大学 ギャラリー
主 催：有馬朗人先生回顧展実行委員会
共 催：静岡文化芸術大学
後 援：静岡県、浜松市、中日新聞東海本社、静岡新聞社・静岡放送
協 力：静岡県立浜松北高等学校同窓会、天為俳句会

本学理事 松井孝典 先生は、2023年3月22日、逝去されました。
生前のご功績を偲び、謹んでご冥福をお祈りいたします。

ミックス
紙 | 責任ある森林管理を支えています
FSC® C021550
FSC www.fsc.org